

平成11年 2月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

わざわ よ 禍いを除け、福を招く植物たち

★ ヒイラギ<柊>

3日の節分にはイワシの頭をヒイラギの小枝に刺して門口かどぐちに立て、「福は内、鬼は外」と大声で叫びながら豆をまいて<鬼やらし>をした家が多かったことと思います。ヒイラギの葉の緑の鋭い刺とイワシの強い臭気とが悪鬼（病気や禍）を近寄せないと考えられ、節分にはヒイラギ、イワシ、それに炒り豆という3つの組み合わせができました。青梅市内では昭和30年代ごろまで、このほかに節分の夜、囲炉裏で豆穀（大豆を収穫したあとの茎や莢穀）とナスの枯れた茎を燃やす家がありました。パチパチと爆ぜて燃える音に鬼が家の鬼門うしとら（丑寅…北東の方向）に植えている家をあちこちで見ることができます。

★ ナンテン<南天>

災難を他に転じる植物としてナンテンを裏鬼門ひつじきる（羊申…南西の方角）に植えました。日陰でも育つヒイラギと違って日当たりの良い場所に植えずには美しい実が付きません。植物の性質をうまく取り入れた、じつに、うまい組み合わせです。

★ クチナシ<梔子>

クチナシは<口無し>という名前のとおりに、その実はしっかりと口を封じています。そのため中に雨や、ほこりが入るようなことはありません。このことから、この実を植えておくと外から悪いことが入って来ないと考えられました。また、クチナシは<朽ち無し>に通じることから家運が朽ちることなく長く栄え続けることを願って、この木を玄関先などに植えました。梅雨のころに咲く白い花と、その香りは訪れる人を優しく迎えてくれます。実は正月料理やきんとんの色つけや布の染色などに使われています。家の周りに、ひと株は植えておきたい植物の一つです。

★ オモト<万年青>

新築した家へ家移りやをするとき鉢植えのオモトを、いちばん先に持ちこんで部屋の真ん中に置いて、その周りで家移りを祝う習慣があります。冬にも青々としている葉が火難を除けて家が末永く万年も栄え続けるようにと願って行うものです。また、剣状に伸びた葉と、冬に熟して珊瑚玉の色合いを持つ朱あけの実あけは正月の生け花の材料として古くからだいにされてきました。

(文責 中西 勲)